

# 誕生

## 目的

県道福山鞆線の渋滞を解消するバイパスとしての機能と、沼隈半島一帯の観光開発のため。

## 開通年月

1974年4月

## 区間

水呑町洗谷から熊ヶ峰、彦山、後山と続く標高400m前後の尾根を縦走して鞆町後地までを結ぶ延長14.7km。

## 正式名称

広島県道251号線。  
開通時の通称「後山有料道路」



## 背景と沿革

1960年代から1970年代は「観光有料道路ブーム」と言っても良い時期でした。当時、全国各地に「〇〇グリーンライン」とか「△△スカイライン」といった観光有料道路が山を削り、森林を伐採して建設されました。グリーンラインもそのうちの一つです。

これに先立ち現在グリーンラインと接続されている市道、通称「鞆スカイライン」が1962年に開通しており、これがグリーンライン建設のきっかけになったと思われます。

またこの場所は国立公園制度の制定に伴い、その候補地選定のためにドイツから学者を招聘し、その学者が瀬戸内海沿岸の景勝地を巡ってこの地に着き、「ここが一番美しい」と太鼓判を押し、それが国立公園第1号の「瀬戸内海国立公園鞆の浦」誕生のきっかけになったという逸話もあります。

いずれにしてもマイカーブーム・レジャーブームの波にも乗り、開通当初は料金所に列ができるほどの活況を呈していました。

# 荒廃

1980年に無料化され、それと共に荒廃が始まりました。毎夜のように繰り返されるパトカーと暴走車両のカーチェイス、膨大な量の不法投棄、捨て犬による野犬の増加、それに松枯れによる道路や遊歩道への倒木が追い打ちをかけました。いつしかグリーンラインは「暴走族と、野犬と、松枯れと、不法投棄のゴミのグリーンライン」などと呼ばれるようになりました。



不法投棄されたゴミ



風で倒れた樹木



2001年6月頃の後山公園の「第2遊歩道」

# 蘇生

こうした荒廃をなんとか食い止めようと、数人の男達が立ち上がり、2000年2月、「グリーンラインを愛する会」が誕生しました。「地域の環境保全の第一責任者は住民である」との合い言葉のもとに、さまざまな困難を乗り越えて今日まで地道な活動が続いています。このような住民の活動に呼応し、広島県、福山市を始め、多様な行政機関や企業、各種団体が協働連携を始めました。



蘇った斜面



大型観光バスもゆったり走れる道路に



きれいに整備された同公園の「第2遊歩道」